

■地域文化研究専攻教員の活動（2014年1月～12月）

- * 所属教員名の五十音順に、各人の研究活動を下記の項目にしたがって記載した。
- * 該当業績のない項目は省略している。
- * 前年記載漏れの業績なども含む。

A. 著書, B. 分担執筆, C. レフェリー付き学術論文, D. 一般学術論文, E. 翻訳, F. その他の業績,
G. 国際学会での活動, H. 国内学会での活動, I. その他の研究活動, J. 受賞

相澤隆 (AIZAWA Takashi)

足立信彦 (ADACHI Nobuhiko)

D. 一般学術論文

- 足立信彦. 略奪と陵辱——性・所有・共同体 I——. 『Odysseus』. **18**, pp9–30. 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻. 2014.

網野哲哉 (AMINO Tetsuya)

B. 分担執筆

- 網野徹哉. まえがき, 第一章 はじめに, 第二章 アメリカ世界の古代文明, 第三章 ラテンアメリカ植民地社会とは何であったか, 第五章 異文化の相克, 第十五章 動きゆくアメリカ. 網野徹哉・橋川健竜. 『南北アメリカの歴史 (放送大学教材)』. p253. pp3–93, pp226–240. 放送大学教育振興会. 2004.3.20.

有田伸 (ARITA Shin)

D. 一般学術論文

- 石田浩・有田伸・藤原翔・朝井友紀子. 希望・仕事・喫煙行動の変化「働き方とライフスタイルの変化に関する全国調査 (JLPS) 2013」の結果から. 『東京大学社会科学研究所パネル調査プロジェクトディスカッションペーパーシリーズ』. **75**. p19. 2014.

G. 国際学会

- The 18th ISA World Congress of Sociology. 国際社会学会. パシフィコ横浜 (横浜). 2014.7.17. 一般発表 (Kikuko Nagayoshi・Hirofumi Taki との共同発表). Transformation of Labor Market and Legitimacy of Income Inequality in Japan. 英語.
- International Conference “How do education systems shape educational inequalities?”. University of Luxembourg. Centre Culturel de Rencontre Abbaye de Neumünster in Luxembourg (ルクセンブルク). 2014.7.4. 一般発表 (Hirofumi Taki との共同発表). Rewards inequalities generated by educational credentialism: A comparison between East Asia and Europe. 英語.

- International Conference on Asian Social Survey and Data Sharing, ソウル大学アジア研究所, ソウル大学 (ソウル), 2014.3.7. 一般発表, Current state of social survey in Japan, 英語.

H. 国内学会

- 第 87 回日本社会学会大会, 日本社会学会, 神戸大学 (神戸), 2014.11.22–23, 日韓ジョイントパネル 人の国際移動と移民政策を考える——日韓の事例・両国への示唆, 韓国語・日本語, 組織委員・司会.
- 第 66 回日本教育社会学会大会, 日本教育社会学会, 松山大学 (松山), 2014.9.13, 一般発表 (大島真夫・石田賢示・石田浩・藤原翔との共同発表), 学校と職業のリンケージ——東大社研パネル調査 (JLPS) データの分析——.
- 第 62 回北海道社会学会大会, 北海道社会学会, 札幌大谷大学 (札幌), 2014.6.17, 招待講演, 正規職と非正規職はなぜ区別されるのか?——「ポジション」間報酬格差の社会学的説明の試み.

アルヴィ宮本なほ子 (ALVEY MIYAMOTO Nahoko)

C. レフリー付き学術論文

- Alvey, N. M. The Artistry of Connection: Shelleyan Ottava Rima in “Hymn to Mercury” and “The Witch of Atlas.” *POETICA*, **82**, pp59–77. Yushodo, 2014.

F. その他の業績

- W. Alex and N. M. Alvey, ed. Romantic Connections. *POETICA*, **82**, Special Issue piii + 134. Yusodo, 2014. (学術雑誌の特集号の編集)

G. 国際学会

- NASSA Supernumerary Conference: Romantic Connections. The Romantic Connections Committee and NASSR. University of Tokyo (Hongo Campus), 2014.6.13–15, The Artistry of Connection: Shelleyan Ottava Rima in “Hymn to Mercury” and “The Witch of Atlas.” 英語, 学会運営委員.

池上俊一 (IKEGAMI Shun'ichi)

A. 著書

- 池上俊一, 『公共善の彼方に——後期中世シエナの社会』, p602, 名古屋大学出版会, 2014.

B. 分担執筆

- 池上俊一, 第二章フランス, 河原温, 池上俊一 (編), 『ヨーロッパ中近世の兄弟会』, p544, pp71–121, 東京大学出版会, 2014.

井坂理穂 (ISAKA Riho)

D. 一般学術論文

- 井坂理穂, 植民地期インドにおけるイギリス人家庭と料理人, 『Odysseus 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要』, **18**, pp31–50, 2014.

F. その他の業績

- 井坂理穂. 本の棚 福沢諭吉と朝鮮問題「朝鮮改造論」の展開と蹉跌. 月脚達彦著. 『教養学部報』, **570**, p3. 2014.
- 井坂理穂. 東大教員が語る偉人伝 M・K・ガーンディー (1869–1948). 『週刊 東京大学新聞』, **2665**, p3. 2014.
- 井坂理穂. 学会近況 テーマ別セッションI 近現代インドにおける食文化とアイデンティティ. 『南アジア研究』, **25**, pp209–214. 2013.

G. 国際学会

- SNU-INDAS Conference. Perspectives, Dialogues and Challenges: India, Japan and the Making of Modern Asia. Shiv Nadar University. India Habitat Centre (New Delhi). 2014.12.13. 一般発表. Women and Medicine: India, Japan and the World in the 1880s. 英語.
- One-Day Workshop: What Do We Eat?: Food and Identity in India. Department of History, Janki Devi Memorial College, University of Delhi (New Delhi). 2014.12.12. 一般発表. Reconstructing Culinary Practices and Ideas of Modernity in Colonial India. 英語. 組織・運営.
- FINDAS International Workshop: ‘Untouchability’ in India and Japan: Labour and Space. 現代インド研究センター・東京外国語大学拠点. 東京外国語大学. 2014.5.31. 組織・司会.

H. 国内学会

- 日本南アジア学会第 27 回全国大会. 大東文化大学. 2014.9.28. 一般発表. Making ‘Modi Stories’: The Publishing Industry in Contemporary Gujarat. 英語.

石井剛 (ISHII Tsuyoshi)

A. 著書

- 石井剛. 『戴震と中国近代哲学——漢学から哲学へ——』. 知泉書館. p 417. 2014.

B. 分担執筆

- Tsuyoshi Ishii. Chapter 2 “Dai Zhen’s Solitude and Hu Shi’s Design for a New Chinese Philosophy: Concerning Their Struggle against Confucian Traditional Ethics”. NAKAJIMA Takahiro, LAM Wing-keung, BABA Tomokazu ed.. *After New Confucianism: Whither Modern Chinese Philosophy?*. p137. pp31–53. Contemporary Philosophy in the Age of Globalization. 2014.
- 石井剛. 第 7 章 章炳麟と高山樗牛の国家論: 明治後期日本における思想連鎖を問う. 中島隆博・馬場智一編 『グローバル化時代における現代思想 香港会議』, p179. pp103–121. 東京大学東洋文化研究所「グローバル化時代における現代思想」(CPAG). 2014.
- 石井剛. 姉崎正治と高山樗牛關於“煩悶”的討論——明治後期個體生命意義與國家主義的糾纏——. Tsuyoshi ISHII ed.. *APF Series 2: Life, Existence and Ethics: Philosophical Moment in The East Asian Discourse*. UTCP-Uehiro Booklet 4. p236. pp183–202. UTCP. 2014.
- 石井剛. 知識生産・主体性・批評空間——汪暉《現代中国思想の兴起》日文簡本“译者解说”

——. 何吉贤, 张翔编《探寻中国的现代性 汪晖学术思想评论集(一)》, 东方出版社, 420p, pp123-141, 2014.

- 石井剛. 理、勢、语言以及个人的生存——汪晖《现代中国思想的兴起》中的章太炎论所引发之思考——. 何吉贤, 张翔编《探寻中国的现代性 汪晖学术思想评论集(一)》, 东方出版社, 420p, pp270-296, 2014.

D. 一般学術論文

- 石井剛, 「シナ学」の現代中国認識——平岡武夫の天下の世界観をめぐって, 科研費基盤研究(B)「戦後日本における中国研究と中国認識」(課題番号 2230150、研究代表者: 代田智明、2010年度~2012年度) 研究成果報告書, pp131-149, 2014.
- Tsuyoshi Ishii. The Scientific Spirit and the Transformation of Li (Principle): The Debate about the Assessment of Ch'ing Scholarship in the Early Republican Period. *Transactions of the International Conference of Eastern Studies* (国際東方学会議紀要), **58**, pp42-58, 2014.

F. その他の業績

- 石井剛, 企画の趣旨「小特集1 中国の〈いま〉と人文学——『開放時代』との対話を通じて」, 『中国——社会と文化』, **29**, pp152-154, 2014.
- 石井剛, 「同ぜず」のために: たたかう孔子と「文」の共同態, 『現代思想』(2014年3月号), **42.4**, pp74-85, 2014.

G. 国際学会

- “章太炎の解读与现代中国思想” 工作坊, 科研費基盤研究(B)「現代中国思想史構築のための中国知識界言説研究」, 東京大学(東京), 2014.11.29-30, 一般発表, 佛声、革命、国故: 章太炎思想的定位问题在日本学术思想史中的表现, 中国語, 主催者.
- シンポジウム「終わらぬ被災経験と人文学の役割: 日中間対話を通じて」, 科研費基盤研究(B)「現代中国思想史構築のための中国知識界言説研究」, 東京大学(東京), 2014.11.25, 主催者・企画・総合司会.
- CPAG ラップアップシンポジウム「新しい普遍性」をめぐる東アジア三方対話」, 科研費基盤研究(A)「グローバル化時代における現代思想——概念マップの再構築」, 東京大学(東京), 2014.11.14, 一般発表, “文”——在“和而不同”中面对“他者”的艺术: 回应贺照田《当中国开始深入世界……: 南迪与中国历史的关键时刻》, 中国語.
- “东亚危机下的国家感觉与国际感觉” 学术会议, 亚际书院, 金泽工艺馆(上海), 2014.7.6-7, 一般発表, “文”——在“和而不同”中面对“他者”的艺术: 回应贺照田《当中国开始深入世界……: 南迪与中国历史的关键时刻》, 中国語, 都合により当日欠席(発表代読).
- CPAG/ICCT 国際シンポジウム「“現場”の挑戦と文学の営み」, 科研費基盤研究(A)「グローバル化時代における現代思想——概念マップの再構築」, 東京大学(東京), 2014.6.27-28, 一般発表, 孔子の「文」と武田泰淳の歴史: 「書く」ことでリヴァイアサンは逃れられるか.
- 戴震与中国近代哲学, 中山大学哲学系・哲学研究所(広州), 2014.3.31, 招待講演, 中国語.

- 延世大学 -UTCP 国際会議「東アジアから問う「新しい普遍」」, UTCP, 東京大学 (東京), 2014.4.7, 一般発表, 受苦としての普遍性:『史記』の世界構想と武田泰淳の文学.

H. 国内学会

- 羅永生講演会「誰も知らない香港現代思想史」, 科研費基盤研究 (B)「現代中国思想史構築のための中国知識界言説研究」, 明治大学 (東京), 2014.10.12, コメンテーター.
- 『現代思想』2014 年 3 月号特集「いまなぜ儒教か」刊行記念ワークショップ, UTCP, 東京大学 (東京), 2014.3.12, 一般発表, 「同ぜず」のために: たたかう孔子と「文」の共同態, 司会.

石井洋二郎 (ISHII Yojiro)

D. 一般学術論文

- 石井洋二郎, 肖像写真家としての出発: ナダール 時代を「写した」男 6, 『環』, **59**, pp408-428, 藤原書店, 2014.
- 石井洋二郎, パンテオン・ナダール: ナダール 時代を「写した」男 5, 『環』, **58**, pp316-338, 藤原書店, 2014.
- 石井洋二郎, カリカチュアの方へ: ナダール 時代を「写した」男 4, 『環』, **57**, pp364-384, 藤原書店, 2014.
- 石井洋二郎, 文学と政治のはざままで: ナダール 時代を「写した」男 3, 『環』, **56**, pp360-377, 藤原書店, 2014.

F. その他の業績

- 石井洋二郎, エッセー, 東京大学における教養教育の再構築, 『IDE 現代の高等教育』, **565**, IDE 大学協会, 2014.
- 石井洋二郎, インタビュー, 東大でも「教養教育」見直し, 産経新聞, 6/18, 2014.
- 石井洋二郎, インタビュー, 学部長に聞く 教育改革, 東京大学新聞, 6/17, 2014.
- 石井洋二郎, エッセー, 熱き血潮に触れよ, 『教養学部報』, **564**, 東京大学教養学部, 2014.
- 石井洋二郎, 基調講演, 初年次教育とリベラルアーツ, 教養教育高度化機構シンポジウム, 東京大学教養学部, 2013.

石田勇治 (ISHIDA Yuji)

B. 分担執筆

- 石田勇治, 現代のドイツ, 木村靖二・千葉敏之・西山暁義 (編), 『ドイツ史研究入門』, p479, pp177-201, 山川出版社, 2014.

D. 一般学術論文

- 石田勇治, 望田史学の地平——戦後市民社会の日独比較に向けて——, 『ゲシヒテ』, **7**, pp53-58, ドイツ現代史研究会, 2014.

E. 翻訳

- 石田勇治 (訳), パトリック・ヴァーグナー, ドイツの刑事警察・犯罪学とシンティ, 猪狩弘美との共訳, *European Studies*, **14**, pp. 49–53, 東京大学大学院総合文化研究科グローバル地域研究機構ドイツ・ヨーロッパ研究センター, 2014.

F. その他の業績

- 石田勇治, 書評, ダン・ストーン著 (武井彩佳訳) 『ホロコースト・スタディーズ——最新研究への手引き』 (白水社, 2012), 『ユダヤ・イスラエル研究』, **28**, pp127–128, 日本ユダヤ学会, 2014.
- 石田勇治, 罪と責任を分ける独——日本も発想の転換を, 毎日新聞, 2014.12.29.
- 石田勇治, 独の経験 和解に生かせ, 毎日新聞, 2014.8.22.

G. 国際学会

- Global Social Sciences Conference Political Reconciliation in Comparative Perspective. Lam Woo International Conference Centre. Shaw Campus, Hong Kong Baptist University (Hong Kong), 2014.6.6, 一般発表, Ishida, Y. Comparing German and Japanese “coming to terms with the past”, 英語.
- 国際シンポジウム, ショアの表象——アネット・ヴィヴィオルカ氏を迎えて, 東京大学 (東京), コメント, 2013.3.27, (昨年度分).

I. その他の研究活動

- 高校生のための金曜特別講座, アウシュヴィッツからヒロシマ・ナガサキへ, 東京大学・駒場, 2014.11.7.
- シンポジウム 駒場祭連携企画, 越境するヒロシマ——ロベルト・ユンクと原爆の記憶, 東京大学・駒場, 2014.11.7, コーディネート, 主旨説明.
- 特別展 越境するヒロシマ——ロベルト・ユンクと原爆の記憶, 東京大学駒場博物館, 2014.10.18–12.7, 代表, コーディネート.
- 日独共同大学院プログラム (IGK), 2014 年秋季アカデミー, 東京大学・駒場, 2014.9.30–10.4, コーディネート, ドイツ語.
- 荻上チキ Session-22, TBS ラジオ, ネオナチ写真問題が示すものとは, 2014.9.11, 出演.
- 歴史教育者協議会主催学習会, 悪しき過去との取り組み——戦後ドイツの経験から, 東京, 2014.7.4, 講演.
- 日独共同大学院プログラム (IGK), 2014 年春季アカデミー, 東京大学・駒場, 2014.3.11–15, コーディネート, ドイツ語.

石橋純 (ISHIBASHI Jun)

B. 分担執筆

- 石橋純, 「南米の民衆知からの学び」, フィルムアート社編 『自分の学びの見つけ方』, p255, pp68–77, フィルムアート社, 2014.

F. その他の業績

- 石橋純. 音楽評論, 「追悼: 現代の吟遊詩人 シモン・ディアス」, 『ラティーナ』, **722**, 2014.4, pp14-15.
- 石橋純. エッセー, 「音楽を通じた地球規模の「深い」文化交流: ラミゼミ／エストゥディアン ティーナ駒場の活動」, 『教養学部報』, **566**, 2014.6.4.
- 石橋純. エッセー, 「困った時の南米式中華」, 『Vesta』, **95**, 2014.7.10, pp18-19.
- 石橋純. 音楽評論, 「ラテン・ジャズの大家アルデマロ・ロメロ」, 『ラティーナ』, **729**, 2014.11, pp48-50.

I. その他の研究活動

- Music Voyage “ONDA NUEVA MEETS JAPAN”——Original Music from Venezuela. 講演, 司会, 通訳, 実演: トリオ・アルデマロ・ロメロ, 2014.11.5, Cafe 104.5.
- J-Wave Tokyo Morning Radio “Morning Insight”. ラジオ番組出演, 通訳, 2014.11.5, ゲスト: トリオ・アルデマロ・ロメロ, 石橋純, モリス・レイナ.
- 第16回駒場友の会演奏会 ベネズエラ発ラテン・ジャズ・ユニット トリオ・アルデマロ・ロメロ. コンサート企画, 運営, 司会, 講演, 通訳, 2014.11.3, 東京大学駒場キャンパスコミュニケーション・プラザ北館音楽実習室.
- ベネズエラ・ジャズ《オンダヌエバ》ワークショップ (講師トリオ・アルデマロ・ロメロ). ワークショップ企画, 司会, 通訳, 2014.11.3, 東京大学駒場キャンパスコミュニケーション・プラザ北館音楽実習室.
- 南米ベネズエラの音楽と文化. 講演, 2014.9.29 南城市文化センターシュガーホール.
- 南米ベネズエラの音楽と文化. 講演, 2014.9.27 沖縄県立芸術大学当蔵キャンパス 一般教育棟 4階大講義室. 沖縄県立芸術大学小西研究室, 東洋音楽学会九州沖縄地区例会企画.
- 全学体験ゼミナール・ラテンアメリカ音楽演奏入門 成果発表コンサート. コンサート企画, 運営, 司会, 講演, 演奏, 2014.8.2, 東京大学駒場キャンパス 18号館ホール.
- ベネズエラの音楽. 三重県立津高校生徒・教員 70名を対象とした講演, 2014.7.18, 東京大学駒場キャンパスコミュニケーション・プラザ北館音楽実習室.

遠藤泰生 (ENDO Yasuo)

D. 一般学術論文

- 遠藤泰生, 「信教の自由」から考える自由の二元的性格, 『アメリカ太平洋研究』, **14**, pp130-138, 東京大学アメリカ太平洋地域研究センター, 2014.

F. その他の業績

- 遠藤泰生. 書評フォーラム: 森本あんり著『アメリカ的理念の身体——寛容と良心・政教分離・信教の自由をめぐる歴史の実験の軌跡』をめぐって, 『アメリカ太平洋研究』, **14**, p129, 東京大学アメリカ太平洋地域研究センター, 2014.
- 座談: 福武新太郎・白杵陽・遠藤泰生・寺田勇文・宮崎恒二他, 日本におけるグローバルスタ

ディーズの受容と地域研究, 『地域研究』, **14.1**, pp33–60, 京都大学地域研究総合情報センター, 2014.

- 遠藤泰生, 2013 年度『アメリカ太平洋研究』の刊行によせて, 『アメリカ研究振興会 会報』, **74**, p4, 2014.
- 遠藤泰生, 「本当の「独立」を目指して: ジャマイカ人の深いジレンマ」, 『Transit』, **24**, pp92–93, 2014.
- 遠藤泰生, 19 世紀前半のアメリカ合衆国における市民編成原理の研究 (プロジェクト活動報告), *Newsletter: The University of Tokyo Center for Pacific and American Studies*, **15.1**, p6, 東京大学アメリカ太平洋地域研究センター, 2014.9.
- 遠藤泰生, 「日本におけるアメリカ研究 オーラル・ヒストリー 第 32 巻」 巻頭言, 同編『宮里政玄先生に聞く: 日本におけるアメリカ研究 オーラルヒストリー 32 巻』, 東京大学大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター, 2014.5.
- 遠藤泰生, 19 世紀前半のアメリカ合衆国における市民編成原理の研究 (プロジェクト活動報告), *Newsletter: The University of Tokyo Center for Pacific and American Studies*, **14.2**, p4, 東京大学アメリカ太平洋地域研究センター, 2014.3.

G. 国際学会

- “Water and Faith: Shared Values”. Third Symposium of Sultan Qaboos Academic Chairs. 2014.10.3. Ito Hall. The University of Tokyo. commentator.
- 国際シンポジウム「移民国家のつくられ方: アメリカ、オーストラリア、スペインの比較」, 東京大学アメリカ太平洋地域研究センター主催, 2014.6.14, 東京大学駒場キャンパス 18 号館ホール, 企画と司会.
- International Contributing Editor. *Journal of American History (JAH)*.

小川浩之 (OGAWA Hiroyuki)

H. 国内学会

- 東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター主催合評会「アデナウアー再考」, 東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター, 東京大 (東京), 2014.7.22, 討論者.

木宮正史 (KIMIYA Tadashi)

C. レフリー付き学術論文

- 木宮正史, 安倍政権下の日韓 (朝) 関係と在日コリアン問題, 『日本学』, **38**, pp1–22, 韓国東国大学文化学院日本学研究所, 2014.

D. 一般学術論文

- 木宮正史, 序論: 政権交代と外交, 『国際政治 政権交代と外交』, **177**, pp1–10, 167, ppv–vi, 日本国際政治学会, 2014.

- 木宮正史. 歴史認識をめぐる日韓関係の展開とその現在の含意. 『일본에 있어서의 「역사」 화법과 교류의 「역사」: 「한국과의 대화」라는 미래지향적 시점에서 (日本における「歴史」話法と交流の「歴史」: 「韓国との対話」という未来志向的視点から)』, pp128-133 (日本語), pp134-139 (韓国語訳). 韓国日語日文学会. 2014.
- 木宮正史. 中韓 “蜜月” の裏側. 『週刊エコノミスト』 **92.38**. pp34-35. 毎日新聞社. 2014.
- 기미야다다시. ‘한국 때리기’를 넘어서: 일본의 한국연구는 무엇을 지향해야 하는가? (「韓国バッシング」を超えて: 日本の韓国研究は何を指向しなければならないか?). 『JPI Peace Net』. 2014.28. Jeju Peace Institute. 2014. http://jpi.or.kr/kor/regular/policy_view.sky?code=papermorgue&id=5341
- 木宮正史. 「競争」し合う日韓のナショナリズム: ナショナリズムを「鍛え直す」ために. 『生活経済政策』, **211**. pp21-25. 生活経済政策研究所. 2014.
- 木宮正史. 朝鮮半島統一への展望とそのための日韓協力の可能性. 『日韓協力と朝鮮半島の未来: 朝鮮半島信頼プロセスの課題』, pp19-28 (日本語), pp19-27 (韓国語). 東京大学現代韓国研究センター, 韓国政府統一部, 東アジア研究院. 2014.
- 木宮正史. 日韓関係の構造変容、その過渡期としての現状、そして解法の模索. 『SGARA レポート 第12回日韓アジア未来フォーラム アジア太平洋時代における東アジア新秩序の模索』, **67**. pp42-51. 関口グローバル研究会. 2014.
- 木宮正史. 米中関係と朝鮮半島. 『国際問題』, **628**. pp15-23. 日本国際問題研究所. 2014.

F. その他の業績

- 木宮正史. 事典項目執筆. 朝鮮半島に関する項目中の7項目「朝鮮戦争」「開城工業団地」「北朝鮮核実験(2013年)」「中韓関係」「韓国国家情報院」「並進政策」「張成沢」を分担執筆. デジタルイミダス 2014. <http://imidas.jp> 綜合社出版部. 2014.
- 木宮正史ほか. 雑誌座談会. 긴급좌담 추락하는 한일관계 타개할 방안은 없는가? (緊急座談 墜落する韓日関係、打開する方案はないのか?). 『일본공간 (日本空間)』, **14**. pp4-40. 韓国国民大学日本学研究所. 2013.
- 木宮正史. インタビュー記事. 아베, 역사 수정주의 강화 가능성…韓・美・中 적극 대응을 (安倍、歴史修正主義強化可能性、韓国米中は積極的な対応を) 日本の総選挙結果と日韓関係、日本外交に関するインタビュー. 『世界日報』. 2014.12.16.
- 木宮正史. 日本の総選挙結果に関するインタビュー. 『聯合ニュース』. 2014.12.15.
- 木宮正史. 雑誌記事. 「テソロ」1周年各界からのお祝いメッセージ 悩みを理解しあう場. 『테ソロ』, **13**. 2014.11.
- 木宮正史. 인터뷰. 現代韓国朝鮮学会 8日から本県開催 学会長木宮氏に聞く. 『新潟日報』. 2014.11.2.
- 木宮正史. 慰安婦問題に関するコメント. 『ソウル新聞』. 2014.10.23.
- 木宮正史. ソウル大学東京大学学生討論会に関するインタビュー. 『ソウル新聞』. 2014.8.2.

- 木宮正史. 柳興洙駐日大使内定に関するコメント. 『聯合ニュース』. 2014.7.23.
- 木宮正史. 北朝鮮拉致問題に関するコメント. 『朝鮮日報』. 2014.7.11.
- 木宮正史. 日本の集団的自衛権行使の憲法解釈変更に関するコメント. 『朝鮮日報』. 2014.7.1.
- 木宮正史. 河野談話検証結果発表に関するコメント. 『聯合ニュース』 2014.6.20.
- 木宮正史. 座談会. [한-일 애증의 현장을 찾아/3 부: 미래를 향해] <下・끝>전문가 결산 좌담회 “韓日, 가깝다보니 감정싸움… 서로의 중요성 너무 몰라” ([韓日愛憎の現場を訪ねて 3部: 未来に向かって 下(最終回) 専門家決算座談会『近いので感情争い お互いの重要性を余りにも知らない』]). 『東亜日報』. 2014.6.13. 李鍾元早稲田大学韓国学研究所長, 陳昌洙世宗研究所日本研究室長との座談会.
- 木宮正史. 日朝拉致調査合意に関する識者評論(共同通信配信). 『東奥日報』『長崎新聞』『デーリー東北』『岩手日報』『山形新聞』『下野新聞』『高知新聞』など. 2014.5.31-6.11.
- 木宮正史. 日朝ストックホルム合意に関するコメント. 『聯合ニュース』. 2014.5.30.
- 木宮正史. セウォル号、東日本大地震と日韓関係に関するコメント. 『東亜日報』. 2014.5.21.
- 木宮正史. 新聞記事. 북핵 해결 위해선 한·일 협력 필요, 어떻게든 연내 정상회담 열어야” [오바마 亞 순방, 美·中·日 전문가 진단] ④ 기미야 다다시 도쿄대 교수(北朝鮮核問題の解決のため日韓協力が必要、いずれにせよ年内に首脳会談を開かねば オバマアジア巡訪 米中日専門家診断④ 木宮正史東京大学教授). 『世界日報』. 2014.4.22.
- 木宮正史. 雑誌記事. 中国という「悩み」を共有し「知恵を出し合う」日韓関係へ. 『テソロ』. 6. 2014.4. p21.
- 木宮正史. 国際シンポジウムの内容紹介. 『朝鮮日報』. 2014.3.28.
- 木宮正史. 日朝関係に関するコメント. 『聯合ニュース』. 2014.3.27.
- 木宮正史. 東京都知事選挙に関するコメント. 『聯合ニュース』. 2014.2.11.
- 木宮正史. 初井 NHK 会長記者会見の従軍慰安婦問題をめぐる発言に関するコメント. 『朝日新聞』 2014.1.26.
- 木宮正史. 新聞記事. 기로에 선 한일 과거사 문제 먼저 풀고 영토분쟁 자체를 (岐路に立つ韓日過去史問題をまず解決し領土紛争は自制を). 『世界日報』 2014.1.4.

G. 国際学会

- 東アジア知性クラブ座談会 日中韓の未来志向的な同伴者関係の構築. 韓国ソウル特別市. 韓国ソウルグローバルセンター 9 階国際会議場. 2014.12.22. 招待講演. 日中韓関係の未来戦略の構築: どのような三角形なのか?. 日中韓同時通訳.
- 朝鮮半島研究会 金正恩時代の対外戦略の変化と南北関係. 東京大学現代韓国研究センター. 東京大学駒場キャンパス(東京). 2014.12.4. 日韓同時通訳. 司会, 討論者.
- 第7回日韓社会文化シンポジウム 日本社会の構造的変化と日韓関係. 日韓社会文化フォーラム. 韓国中央会館(東京). 2014.11.28. 招待講演. 戦後日本の民主主義の展開: 日韓関係からの逆照射. (『民団新聞』 2014.12.10.)

- 公開シンポジウム 日韓外交の軌跡. 東京大学現代韓国研究センター. 東京大学山上会館 (東京). 2014.11.24. 日韓同時通訳. 司会, 主催責任者.
- 北東アジアの安全保障と経済協力: 日本・韓国 50 年 回顧と展望. 日韓協力委員会・韓日協力委員会. 韓国ソウルロッテホテル. 2014.11.6. 招待講演. 日韓外交の軌跡. 日韓同時通訳.
- 일본에 있어서의 「역사」 화법과 교류의 「역사」: 「한국과의 대화」라는 미래지향적 시점에서 (日本における「歴史」話法と交流の「歴史」: 「韓国との対話」という未来志向的視点から). 韓国日語日文学会. 韓国外国語大学. 2014.10.25. 招待講演. 歴史認識をめぐる日韓関係の展開とその現在の含意. 韓国語.
- 第 4 回東アジア共同体フォーラム. 中国清華大学現代国際関係研究所・韓国高麗大学アジア問題研究所・東京大学現代韓国研究センター. 中国・清華大学 (北京). 2014.9.28. 日中韓同時通訳. 日本側責任者, 司会, 討論者.
- 従軍慰安婦問題を考える 鄭鎮星 (ソウル大学社会学科・教授) 『韓国挺身隊問題対策協議会 20 年史』 をめぐって. 東京大学現代韓国研究センター. 東京大学駒場キャンパス (東京). 2014.7.17. 日韓同時通訳. 主催者, 司会, 討論.
- 第 16 次日韓有識者間政策対話. 世宗研究所日本研究 Center. 軽井沢浅間プリンスホテル. 2014.7.15. 日韓同時通訳. 日本側責任者.
- 朴槿恵政権下の韓国政治社会. 慶応大学現代韓国研究センター. 慶應義塾大学三田キャンパス. 2014.6.25. 日韓同時通訳. 討論者.
- 日韓協力と朝鮮半島の未来: 朝鮮半島信頼プロセスの課題. 東京大学現代韓国研究センター. 韓国政府統一部. 東アジア研究院. 東京大学本郷キャンパス. 2014.6.23. 一般発表. 朝鮮半島統一への展望とそのための日韓協力の可能性. 日韓同時通訳. 日本側主催者.
- 東京大学・ソウル大学オフィス相互設置開所記念シンポジウム. 東京大学. 東京大学本郷キャンパス (東京). 2014.4.14. 一般発表. 東アジア学術共同体の発展と東京大学・ソウル大学の主導的役割. 日韓同時通訳. (『朝日新聞』2014.4.18.)
- 2014 年韓日平和フォーラム. 韓国民主平和統一諮問会議. 東京大学現代韓国研究センター. リッツカールトンホテル東京. 2014.3.27. 日韓同時通訳. 司会, 主催者. (『朝鮮日報』2014.3.28, 『毎日新聞』2014.4.3.)
- 第 15 次日韓有識者間政策対話. 世宗研究所日本研究 Center. 韓国光州ホリデイイン. 2014.3.5. 日韓同時通訳. 日本側責任者.
- 第 13 回日韓アジア未来フォーラム ポスト成長時代における日韓の課題と東アジア協力. (財) 未来人力研究院. (公財) 渥美国際交流財団関口グローバル研究会 (SGRA). 韓国高麗大学. 2014.2.15. 討論者, パネリスト.
- 朝鮮半島研究会 張成沢失脚以後の北朝鮮の対内外政策. 東京大学現代韓国研究センター. 東京大学本郷キャンパス. 2014.2.13. 日韓同時通訳. 主催者, 司会, 討論者.
- 外交史料から見た東アジアと米ソ冷戦. 東京大学現代韓国研究センター. 東京大学本郷キャン

パス, 2014.1.21, 日中同時通訳, 主催責任者, 司会.

H. 国内学会

- 安全保障研究会月例研究会, 安全保障研究会, 都市センターホテル会議室, 2014.11.18, 一般発表, 朝鮮半島情勢 2014: 北朝鮮の現状、日韓歴史問題、中国をめぐる日韓.
- 訪朝報告会, 日朝国交促進国民協会, アルカディア市ヶ谷, 2014.11.4, 一般発表, 訪朝報告, 協会理事.
- 従軍慰安婦問題を考える②「吉田清治証言」とマスコミ報道をめぐって, 東京大学現代韓国研究センター, 東京大学駒場キャンパス, 2014.9.26, 討論者, 主催者, 司会.
- 2014 年度日本比較政治学会研究大会 ナショナリズムと境界線をめぐる比較政治学, 日本比較政治学会・日本学術会議, 東京大学本郷キャンパス, 2014.6.29, 一般発表, 韓国ナショナリズムの原型とその変容: 反外勢・統一から歴史・領土まで.
- 朝鮮半島政策コロキウム北朝鮮専門家ワークショップ 金正恩体制 2 年の評価と展望, 早稲田大学韓国学研究所, 早稲田大学, 2014.3.10, 招待講演, 金正恩体制と日朝関係.
- 学士課程教育における地域研究分野の参照基準, 日本学術会議地域研究委員会基盤整備分科会小委員会, 日本学術会議講堂, 2014.2.12, 一般発表, 大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準地域研究分野, 学術会議連携会員.
- 安全保障研究会月例研究会, 安全保障研究会, 都市センターホテル会議室, 2014.1.14, 一般発表, 2013 年朝鮮半島をめぐる情勢の回顧と 2014 年の展望.

I. その他の研究活動

- BS フジプライムニュース, 日韓・日中・日朝間の問題に進展は? ASEAN 地域フォーラムの外交成果を検証, 2014.8.11.
- BS フジプライムニュース 舛添東京都知事・朴槿恵韓国大統領の会談に伴う日韓関係をどう見るのか, 2014.7.25.
- 言論 NPO 言論スタジオ「日韓関係は改善できるのか」, 2014.7.7, <http://www.ustream.tv/channel/genron-npo-live>
- TBS CS チャンネルニュースバード「ニュースの視点 沈没事故で揺れる韓国」, 2014.4.24.
- TBS CS チャンネルニュースバード「ニュースの視点 再開した日朝協議」, 2014.4.1.
- 韓国 KBS テレビ「신년기획 세계는 지금 (新年企画 世界は今)」, 2014.1.4.

金志英 (KIM Ji-young)

C. レフリー付き学術論文

- Kim, J. Escaping the vicious cycle: Symbolic politics and history dispute between South Korea and Japan. *Asian Perspective*, **38.1**, pp31–60, 2014.
- Kim, J. The role of Japan in building the East Asian security community: An analysis of South Korea-Japan and China-Japan military exchanges [동북아 안보공동체 발전과 일본의 역할: 한·일-중·일간 군

사교류 비교와 분석을 중심으로 (written in Korean)], *The Korea-Japanese Military and Culture* [한·일군사문화연구], 17, 2014.

G. 国際学会

- The Annual Convention of International Studies Association. International Studies Association. Toronto, Canada. 2014.3.29, External Pressure? or Opportunity?: What Has Driven Japan's Security Policy During the Post-Cold War Period?, 英語, Organizer of the Panel.
- The Annual Convention of Japan Studies Association. Japan Studies Association. Hawaii, US. 2014.1.2, Why Is the "Comfort Women" Never Ending Story?: Conflicts at Three Levels, 英語.

黒住真 (KUROSUMI Makoto)

齊藤文子 (SAITOU Ayako)

F. その他の業績

- 斎藤文子, 劇団クセック ACT 『ラッパチーニの娘』 (メキシコ大使館共催) 禍々しい欲望の庭を言葉の草木が埋め尽くす, 『日本イスペインヤ学会会報』, 21, pp16-17, 2014.10.11.

H. 国内学会

- 斎藤文子, 第22回公開シンポジウム「地域のかたち 記憶のかたち」, 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻, 東京大学駒場キャンパス, 2014.6.28, 一般発表, 人びとの記憶を書きかえる——セルバンテス『模範小説集』における試み.

I. その他の研究活動

- 斎藤文子, 報告, 国立大学七大学外国語教育連絡協議会合同シンポジウム グローバル時代の英語教育——高大5年間で伸ばす英語運用能力, 国立大学七大学外国語教育連絡協議会主催, 仙台ガーデンパレス (仙台), 2014.11.13, 東京大学教養学部における英語教育.
- 斎藤文子, エッセイ, ドン・キホーテ、時代を映し変貌する英雄, 世田谷パブリックシアター企画「神なき国の騎士——あるいは、何がドン・キホーテにそうさせたのか」公演プログラム, 2014.3.

佐藤安信 (SATO Yasunobu)

B. 分担執筆

- Sato, Y. Nuclear Power and Human Security: Lessons from the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant's Accident. Keyzer, P. et al. *Access to International Justice*. pp241-254. Routledge. 2014.

E. 翻訳

- 佐藤安信、山本哲史 (訳), Hathaway, J. *The Right of Refugees under International Law* 難民の権利, p353, Cambridge University Press, 日本評論社, 2014.

F. その他の業績

- 佐藤安信, 書評, Gillespie, J. and Nicholson, P. eds, 『アジア経済』, **55.3**, Law and Development and the Global Discourses of Legal Transfers, pp103–107.
- 東大駒場キャンパスにおける難民法に関する国際シンポジウム, 2014.11.21–22, 企画運営, 司会.

G. 国際学会

- ANZ Society of International Law, Australia National University (ANU), 2014.7.3–5, コメント.

H. 国内学会

- 国際人権法学会, 広島大学, 2014.11.22, コメンテーター.
- 人間の安全保障学会の分科会, 東北大学, 2014.9.6–7, コメント.

I. その他の研究活動

- 「人間の安全保障」プログラム (HSP)・グローバル地域研究機構持続的平和研究センターでの研究活動.
- 寄付講座難民移民 (法学館) の調査研究, <http://cdr.c.u-tokyo.ac.jp/>

代田智明 (SHIROTA Tomoharu)

菅豊 (SUGA Yutaka)

B. 分担執筆

- 菅豊, ガバナンス時代のコモンズ論——社会的弱者を包括する社会制度の構築——, 三俣学編, 『エコロジーとコモンズ——環境ガバナンスと地域自立の思想——』, pp233–252, 晃洋書房, 2014.

C. レフリース付き学術論文

- 菅豊, 文化遺産時代の民俗学——「間違った二元論 (mistaken dichotomy)」を乗り越える, 『日本民俗学』, **279**, 日本民俗学会, pp33–41, 2014.

D. 一般学術論文

- 菅豊, 前沿話題・為了從中国的非物質文化遺產保護中學習, 『民間文化論壇』, **225**, 中国文学芸術界聯合会, pp5–6, 2014.2.
- 菅豊, 跨越“錯誤的二元論 (mistaken dichotomy)”, 『民間文化論壇』, **225**, 中国文学芸術界聯合会, pp20–23, 2014.2.

G. 国際学会

- タイ国日本研究国際シンポジウム 2014, チュラーロンコーン大学, タイ・バンコク, 2014.8.26, 招待講演, 日本文化のトランスナショナリズム——グローバル化時代における文化研究のひとつの方法——.
- 首届中日民俗学高層論壇, 中国民俗学会, 中国・貴陽市, 2014.4.19, 招待講演, 多様化的民族志方法與民俗学, 中国語.

H. 国内学会

- 日本民俗学会第 66 回年会, 日本民俗学会, 滝沢市, 2014.10.12, 発表, 民俗行政のコラボラティブ・ガバナンス.
- 現代民俗学会 2014 年度年次大会シンポジウム『民俗誌はもういない? —— 現代民俗学のエスノグラフィー論 ——』, 現代民俗学会, 東京, 2014.5.18, 講演, 民俗学における多様なエスノグラフィーへの挑戦.

杉田英明 (SUGITA Hideaki)

D. 一般学術論文

- 杉田英明, 空飛ぶ馬——東ユーラシアにおける名馬伝承の起源と展開, 『文学』, **15.1**, pp19–37, 岩波書店, 2014.
- 杉田英明, ヴィルヘルム・バックハウスと日本人——夏目漱石から池田理代子まで, 『ODYSSEUS』, **18**, pp1–31, 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻, 2014.

I. その他の研究活動

- 『千一夜物語』に見るアラブ・イスラム的伝統, 品川シルバー大学ふれあいアカデミー最終回, 品川区役所第三庁舎, 2014.11.26.
- 悪としての世界史: 三木亘の中東地域文化研究, 東京大学中東地域研究センター公開シンポジウム, モデレーター, 東京大学駒場キャンパス, 2014.4.20, 三木亘・家島彦一・羽田正・新井高子・辻上奈美江の諸氏と.

杉山清彦 (SUGIYAMA Kiyohiko)

B. 分担執筆

- 杉山清彦, 大清帝国の支配秩序と宮廷演劇——マンジュ王朝の祝祭と王権——, 磯部彰編, 『清朝宮廷演劇文化の研究』, p656, pp613–640, 勉誠出版, 2014.

F. その他の業績

- 杉山清彦, 書評, 池尻陽子著 汲古書院『清朝前期のチベット仏教政策——扎薩克喇嘛制度の成立と展開——』, 『中国研究月報』 **68.1**, pp48–50, 中国研究所, 2014.
- 杉山清彦, 書評, 『アジアの歴史——東西交渉から見た前近代の世界像』, 『東方』 **400**, p24, 東方書店, 2014.
- 杉山清彦, シンポジウム記録, 岡田史学とは何か, 『環【歴史・環境・文明】』 **58**, pp230–260, 藤原書店, 2014.
- 杉山清彦, 雑誌記事, 現地社会に不干渉だった清 中華化が失う諸民族への寛容, 『週刊エコノミスト』, 2014.6.3, pp94–95, 毎日新聞社, 2014.
- 杉山清彦, 新聞記事, 東大教員が語る偉人伝 スルハチ, 『東京大学新聞』2014 年 10 月 21 日号, p3, 東京大学新聞社, 2014.

I. その他の研究活動

- 講演, 現代の東アジア世界——「民族」問題の歴史的背景, 神奈川県社会科部会歴史分科会・高大連携の試み「現代のアジアをどう学ぶか」, 鎌倉市, 2014.8.12.
- 講演, 大清帝国とユーラシア東方世界, 兵庫県高等学校教育研究会社会(地理歴史・公民)部会平成26年度春季研究大会, 神戸市, 2014.5.20.
- 講演, ユーラシア東方世界と日本——内陸アジア史・海域アジア史の新潮流から——, 近畿中学校社会科研究会・第8回社会科教員交流会, 大阪市, 2014.2.22.

鈴木啓二 (SUZUKI Keiji)

B. 分担執筆

- 鈴木啓二, 第二章, 詩, 3 ボードレール, 4 象徴主義の時代, 5 ランボーとロートレアモン, 小倉孝誠編, 『十九世紀フランス文学を学ぶ人のために』, p320, pp53-70, 世界思想社, 2014.

D. 一般学術論文

- 鈴木啓二, 二つの「鏡」——『鏡子の家』と11・25, 『三島由紀夫研究』, 14, p4-15, 鼎書房, 2014.

H. 国内学会

- 公開シンポジウム 地域のかたち 記憶のかたち, 東京大学総合文化研究科地域文化研究専攻, 東京大学(東京), 2014.6.28, 一般発表, 記憶の場／詩人の記憶——ゴール人起源の言説をめぐって.

I. その他の研究活動

- 日本語版監修, 『ビジュアル 教養大事典』, 項目「映画」, 日経ナショナルジオグラフィック社, 2014.

高橋英海 (TAKAHASHI Hidemi)

B. 分担執筆

- 高橋英海, ユーラシアの知の伝達におけるシリア語の役割, 堀川徹編 『知の継承と展開——イスラームの東と西』(シリーズ 知のユーラシア), p227, pp15-44, 明治書院, 2014.
- Takahashi, H. Armenisch-Garschuni (Armenisch in syrischer Schrift), Transcription of Syriac in Chinese and Chinese in Syriac Script in the Tang Period. J. den Heijer, A. B. Schmidt & T. Pataridze (eds.). *Scripts beyond Borders: A Survey of Allographic Traditions in the Euro-Mediterranean World* (Publications de l'Institut Orientaliste de Louvain 62). p655. pp187-214, pp329-350. Louvain: Peeters. 2014.
- Takahashi, H. Syriac and Arabic Transmission of On the Cosmos. Johan C. Thom (ed.). *Cosmic Order and Divine Power. Pseudo-Aristotle, On the Cosmos* (Scripta Antiquitatis Posterioris ad Ethicam Religionemque pertinentia [SAPERE] 23). p230. pp153-167. Tübingen: Mohr Siebeck. 2014.
- Takahashi, H. Syriac Version of Nicolaus-Olympiodorus on the Genesis of Winds. Elisa Coda & Cecilia

Martini Bonadeo (eds.). *De l'Antiquité tardive au Moyen Âge. Études de logique aristotélicienne et de philosophie grecque, syriaque, arabe et latine offertes à Henri Hugonnard-Roche*. p619. pp169–197. Paris: Vrin. 2014.

- Takahashi, H. L'astronomie syriaque à l'époque islamique. Émilie Villey (éd.). *Les sciences en syriaques* (Études syriaques 11). p353. pp319–338. Paris: Geuthner. 2014.

C. レフリー付き学術論文

- Takahashi, H. Reception of Islamic Theology among Syriac Christians in the Thirteenth Century: The Use of Fakhr al-Dīn al-Rāzī in Barhebraeus' Candelabrum of the Sanctuary. *Intellectual History of the Islamic World*. 2. pp170–192. Brill. 2014.
- Takahashi, H. Syriac as a Vehicle for Transmission of Knowledge across Borders of Empires. *Horizons: Seoul Journal of Humanities*. 5. pp29–52. Institute of Humanities, Seoul National University. 2014.

D. 一般学術論文

- Takahashi, H. Armenian Garshuni: An Overview of the Known Material. *Hugoye: Journal of Syriac Studies*. 17.1. pp81–117. Beth Mardutho. 2014.
- Takahashi, H. Further Notes on the Syriac and Garshuni Manuscripts at Yale University. *The Harp: A Review of Syriac and Oriental Ecumenical Studies*. 29. pp97–126. St. Ephrem Ecumenical Research Institute. 2014.
- De Leemans, P., Hosoi, A., Takahashi, H. Un manuscrit de l'Aristoteles Latinus à la National Diet Library, Tokyo, Japon. *Bulletin de philosophie médiévale*. 55. pp3–18. Société Internationale pour l'Étude de la Philosophie Médiévale. 2013 (2014).

F. その他の業績

- Takahashi, H. 事典項目. Barhebraeus. *Encyclopaedia of Islam*, Third Edition, Part 2014–2. pp40–44. Leiden: Brill. 2014.

G. 国際学会

- The Third Symposium of Sultan Qaboos Academic Chairs “Managing Water Resources for Sustainable Development”. Sultan Qaboos Higher Centre for Culture and Science/ 東京大学, 東京大学, 2014.10.2–3. 一般発表. Treatment of Water in Syriac Religious and Scientific Literature. 英語.
- International Conference “Christian East: Cultural Interactions with Other Traditions”. Государственный Эрмитаж. Санкт-Петербург. 2014.9.4–6. 一般発表. On Some Late Collections of Syriac Anti-Armenian Tracts. 英語.
- International Conference in Commemoration of the Centennial of the Birth of Franz Rosenthal “Graeco-Arabica. Present State and Future Prospects of an Emerging Field”. Department of Near Eastern Languages and Civilizations. Yale University. 2014.4.25–27. 招待講演. Syriac as the Intermediary in Graeco-Arabica: On Some Historical and Philological Aspects. 英語.

H. 国内学会

- 第14回東方キリスト教学会大会，東方キリスト教学会，南山大学，2014.8.25-26，サイフォー（剣の年）：1914年～1918年のシリア人（スルヨーイェー）・アッシリア人虐殺とその記憶，そして2014年。
- 科学研究費補助金（基盤研究（A））「ユダヤ・イスラーム宗教共同体の起源と特性に関する文明的的研究」グループC報告会，東京大学，2014.7.12，シリア語キリスト教徒によるイスラーム法の受容。
- 第16回古代・東方キリスト教研究会，東京大学，2014.2.22，シリア語世界の周縁から——シリア語漢文表記，中央アジアの碑文，シリア文字アルメニア語，シリア文字ラテン語。

高橋均 (TAKAHASHI Hitoshi)

竹村文彦 (TAKEMURA Fumihiko)

D. 一般学術論文

- 竹村文彦，『ラサリーリョ・デ・トルメスの生涯』に〈概略〉はあったか？——ロサ・ナバーロ・ドゥランの作品解釈を検証する——，『ODYSSEUS』，18，pp51-69，東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻，2014。

F. その他の業績

- 竹村文彦，講義記録，女たらしドン・フアンの原型——ティルス・デ・モリーナ作(?)『セビーリャの色事師と石の招客』をめぐる，ヨーロッパ近代小説の芽生え——作者不詳『ラサリーリョ・デ・トルメスの生涯』をめぐる，『地中海の魅力 2012 地中海の誘惑 2013』，p98，pp25-27，pp89-92，慶應義塾大学文学部，2014。
- 竹村文彦，講演，異文化塾「スペイン語圏から見た世界」第1回，新潟国際情報大学，2014.11.22，新潟中央キャンパス，スペイン語圏の文学の魅力——『ドン・キホーテ』とラテンアメリカの新しい小説。

H. 国内学会

- 2014年度人文科学研究所研究懇話会 第6回，清泉女子大学人文科学研究所，2014.12.5，清泉女子大学（東京），一般発表，妻レオノールの病と死をめぐるA・マチャードの詩篇を読む。

田中創 (TANAKA Hajime)

G. 国際学会

- The Processes of Dying in the Ancient Greek World，京都大学白眉センター・文学研究科西洋史学専修，関西セミナーハウス（京都），2014.9.2，英語，司会（S. Ohtani，“Two failed cases of martyrdom in Alexandria と Ch. Kotsifou，“Prisons, prayers and pestilence”の2報告）
- The Third Euro-Japanese Colloquium of the Ancient Mediterranean World: “Myths, Sanctuaries and Historiography”，British Schools at Athens，British Schools at Athens（Athens，Greece），2014.4.26，一般

発表, Theodosius' Religious Policy in the Ecclesiastical History of Theodoretus, 英語.

- New Approaches to the Later Roman Empire. Kyoto Lecture & Workshop of Ancient History, 京都大学 吉田キャンパス, 2014.3.8, 招待講演, Another “Asian” aspect in the history of the later Roman empire, 英語, Respondent.

H. 国内学会

- 第64回日本西洋史学会大会シンポジウムA「古代地中海世界における聖域と社会」, 日本西洋史学会, 立教大学池袋キャンパス, 2014.6.1, 招待講演, ローマ帝政後期の神殿利用——州民と官吏の相互作用.

谷垣真理子 (TANIGAKI Mariko)

B. 分担執筆

- 谷垣真理子, 返還後の香港——中国内地との関係に注目して, 谷垣真理子・塩出浩和・容應英 (編), 『変容する華南と華人ネットワークの現在』, p506, pp21-48, 風響社, 2014.

F. その他の業績

- 谷垣真理子, コラム, 語りえなかった済州島の戦後, 『東京大学教養学部報』567, 東京大学教養学部, 2014.7.2.

I. その他の研究活動

- フィールド調査, 珠海留米幼童関係者懇談会出席, 中国広東省珠海市, 2014.12.4-12.6.
- フィールド調査, 香港「中環占領」のテント占領区見学, 銅鑼湾・金鐘, 2014.12.3-12.4.
- ラジオ出演, TBS ラジオ「荻上チキ・Session22」出演, 香港の民主化デモ解説, 2014.10.2.
- 講演, 華南社会的特点和香港政治与社会 (中国語), 中国厦門大学 南洋研究院, 2014.9.19.

J. 受賞

- 第4回地域研究コンソーシアム賞 研究企画賞, 研究代表として国際研究プロジェクト『華南研究の創出』の企画運営および 谷垣真理子・塩出浩和・容應英 (編) 『変容する華南と華人ネットワークの現在』 (506p, 風響社, 2014) の刊行, 2014年度.

田原史起 (TAHARA Fumiki)

C. レフリー付き学術論文

- Matsuzato, K. & Tahara, F. Russia's Local Reform of 2003 from a Historical Perspective: A Comparison with China. *Acta Slavica Iaponica*. 34, pp115-139. 2014.

D. 一般学術論文

- 田原史起, 中国の都市化政策と県域社会——「多極集中」への道程, 東京財団 HP (<http://www.tkfd.or.jp/research/project/news.php?id=1307>), 2014.
- 田原史起, 李增元, 乔海彬, “选择性”治理: 当代中国农村社区建设的新机制, 『ODYSSEUS』, 18, pp71-81, 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻, 2014.

G. 国際学会

- 红河论坛第 206 场, 红河学院, 红河学院文鼎楼 2 楼报告厅, 中国云南省蒙自市, 2014.11.26, 招待講演, “发家致富”与打工经济: 探讨 21 世纪中国农民的精神, 中国語.

F. その他の業績

- 柿崎京一, 田原史起, 黒柳晴夫, 長谷部弘, 竹内隆夫, 岡江恭史, 吉野馨子, 國方敬司, 市田知子, 大友由紀子, 河村能夫, 池上甲一. 座談会記録, 村研発足 60 周年座談会 先人の足跡を今に活かす, 『村落社会研究ジャーナル』, **20.2**, pp10–38, 2014.
- 田原史起, 書評, 于建嵘 (著), 徐一睿 (訳), 寺田道雄 (監修), 『移行期における中国郷村政治構造の変遷——岳村政治』, 『中国研究月報』, **791**, pp44–47, 2014.

筒井賢治 (TUTSUI Kenji)

F. その他の業績

- 筒井賢治, 日本語版監修, 「宗教」, デビッド・ワルチンスキー他, 『ビジュアル教養大事典』, 日経ナショナルジオグラフィック社, p512, pp281–351, 2014.

外村大 (TONOMURA Masaru)

B. 分担執筆

- 外村大, 재일한국인 연구의 동향과 과제 (在日韓国人研究の動向と課題), 제주대학교 재일제주인센터 (濟州大校在日濟州人センター), p399, pp89–108, 주대학교 재일제주인센터 (濟州大校在日濟州人センター), 2014.

C. レフリー付き学術論文

- 外村大, 日本人は「在日朝鮮人問題」をどう考えてきたか: 現代日本における排外主義の歴史的前提, 日本学, **38**, pp40–70, 동국대학교 일본학연구소, (東国大校日本学研究所), 2014.
- 外村大, 일본인은 조선 식민지 지배를 어떻게 생각해 왔는가 日本人は朝鮮植民地支配をどう考えてきたか, 日本空間, **15**, pp. 62–98, 국민대학교 일본학연구소 (國民大校日本学研究所), 2014.

D. 一般学術論文

- 外村大, 植民地期における在日朝鮮人の文化活動, 植民地文化研究, **13**, pp. 2–10, 植民地文化研究会, 2014.

F. その他の業績

- 外村大, 書評, 李洙任 (編著), 『在日コリアンの経済活動——移住労働者, 起業家の現在・過去・未来——』不二出版, 2012 年 3 月, 社会経済史学, **80-1**, pp. 104–105, 社会経済史学会, 2014.
- 外村大, 書評, 加藤直樹 (著), 『9 月 東京の路上で』, 社会新報, **4784**, 社会民主党, 2014.

G. 国際学会

- 国際フォーラム 20世紀前半、二重空間の韓国に生きた日韓の美術家たち、『朝鮮』を描く(仮称)展研究会, 東京都新宿区 韓国文化院ハンマダンホール, 2014.10.11, コメント, 日本語.
- 国際シンポジウム東アジア国際秩序の形成と未来, 清華大学国際関係系研究院, 高麗大学亜細亜問題研究所, 東京大学現代韓国研究センター, 中国北京市 清華大学, 2014.9.28, コメント, 日本語.
- 国際シンポジウム在日朝鮮人社会と運動, 青巖大学校在日コリアン研究所, 東京大学現代韓国研究センター, 東京都目黒区 東京大学駒場キャンパス, 2014.9.19, 一般発表, 植民地期の在日朝鮮人の文化活動: 民族的抵抗の要素に着目して, 日本語.
- 国際シンポジウム日独比較研究の可能性——市民社会の観点から, 日独共同大学院プログラム, ドイツ・ヨーロッパ研究センター, 東京都目黒区 東京大学駒場キャンパス, 2014.3.14, 一般発表, 日本人は「在日朝鮮人問題」をどう考えてきたか, 日本語.

H. 国内学会

- 長野市民教養講座, 長野市民教養講座運営委員会, 長野市ホテルメトロポリタン長野, 2014.12.2, 講演, 大国としての日本——国際関係・民衆生活・自己意識.
- 多民族共生人権啓発セミナー, NPO 法人多民族共生人権教育センター, 大阪市生野区・つるはし交流広場ぱだん, 2014.11.27, 講演, 朝鮮人強制連行とは何だったのか.
- 従軍慰安婦問題を考える, 東京大学現代韓国研究センター, 東京都目黒区 東京大学駒場キャンパス, 2014.9.26, 講演, 「吉田証言」から考える歴史研究・市民社会の認識の問題点.
- シンポジウム「日本の強制労働 過去～現在」, 朝鮮人強制労働被害者立法をめざす日韓共同行動, 東京都千代田区 参議院議員会館, 2014.5.28, 講演, 戦前・戦中の朝鮮人労働者と戦後の外国人労働者をめぐる議論.
- NPO 法人在日韓人歴史資料館土曜セミナー, NPO 法人在日韓人歴史資料館, 東京都港区在日韓人歴史資料館, 2014.4.5, 講演, 朝鮮人強制連行を考える.
- 経済広報センター韓国シンクタンク研究者招聘セミナー, 経済広報センター, 東京都千代田区 経団連会館, 2014.3.17, 講演, 在日コリアンと日韓関係.

中尾まさみ (NAKAO Masami)

D. 一般学術論文

- 中尾まさみ, 移動する詩人／書き直される土地——シェイマス・ヒーニーと暴力, 『現代詩手帖』, 57.3, pp28–32, 思潮社, 2014.3.

F. その他の業績

- 中尾まさみ, 東京大学の初年次英語教育, 『教養教育高度化機構シンポジウム初年次教育報告書』, pp22–23, 東京大学教養学部教養教育高度化機構.

H. 国内学会

- シンポジウム「破滅型詩人と近代社会」, 第86回日本英文学会全国大会, 北海道大学.

2014.5.25. James K. Baxter と Dylan Thomas——「破滅型」詩人像の造形と近代社会

- シンポジウム「初年次教育」, 東京大学教養教育高度化機構, 東京大学駒場キャンパス, 2014.3.12, 東京大学の初年次英語教育.

長沢栄治 (NAGASAWA Eiji)

B. 分担執筆

- 長沢栄治, 地域としての中東とシナリオプランニング, 長沢栄治 (編), 『グローバル戦略課題としての中東——2030年の見通しと対応——』, p144, pp1–15, 日本国際問題研究所, 2014.

F. その他の業績

- 長沢栄治, 「国民国家とカリフ制——ラシード・リーダーの「予言」」(「アラブを見る眼」第17回) 2014.8.5 配信.
- 長沢栄治, 「新大統領選出を前にして——2014年3月エジプト滞在記(3)」(「アラブを見る眼」第11回) 2014.5.25 配信.
- 長沢栄治, 「「洪水の後」のアレキサンドリア——2014年3月エジプト滞在記(2)」(「アラブを見る眼」第11回) 2014.5.2 配信.
- 長沢栄治, 「鈴木登さんのいないカイロ——2014年3月エジプト滞在記(1)」(「アラブを見る眼」第14回) 2014.4.15 配信.
- 長沢栄治, 「エジプト革命3周年を前にして 革命に第四ラウンドはあるか」(「アラブを見る眼」第13回) 2014.1.14 配信.

G. 国際学会

- International Workshop “Crises and Networks in the Mediterranean World”, 一橋大学地中海研究会, ムハンマド5世大学, Institut Universitaire de la Recherche Scientifique 共催, ムハンマド5世大学(ラバト), 2014.9.4–9.5, 一般発表, *Thawra in the Modern Arab History*, 英語.

H. 国内学会

- 第30回日本中東学会公開講演会, 日本中東学会, 東京大学(東京都), 2014.11.19, 一般発表, 近代エジプトにおける革命の系譜～2011年革命への道.
- 第36回知の拠点セミナー, 国立大学共同利用・共同研究拠点協議会, 京都大学東京オフィス(東京都), 2014.9.19, 一般発表, アラブ革命の時代.
- 第30回日本中東学会年次大会 Special Session: A New Horizon of the Middle East Studies, 日本中東学会, 東京国際大学(川崎市), 2014.5.11, 一般発表, “The Future of the Post-Colonial Regimes in the Arab World”, 英語.
- 早稲田大学イスラーム地域研究機構「中東政治・経済の構造変動とイスラーム・アラブの役割」研究会, 早稲田大学イスラーム地域研究機構, 京都大学(京都市), 2014.3.9, 一般発表, 再論: アラブ主義の現在.
- 山梨近代史の会月例研究会, 山梨近代史の会, 山梨県立大学(甲府市), 2014.1.17, 招待講演.

一般アラブ革命と中東の今後——エジプトを中心に—。

西川杉子 (NISHIKAWA Sugiko)

F. その他の業績

- 西川杉子, 「ヨーロッパ (近代イギリス)」, 「2013 年の歴史学界——回顧と展望——」, 『史学雑誌』, **123**, p428, pp330–336, 史学会, 2014.

西崎文子 (NISHIZAKI Ayako)

B. 分担執筆

- 西崎文子, 「米国外交からみた集団的自衛権」, 奥平康弘, 山口二郎ほか (編), 『集団的自衛権の何が問題か——解釈改憲批判』, p327, pp237–249, 岩波書店, 2014.

F. その他の業績

- 西崎文子, 新聞記事, 「近藤勝重の『世相を見る』——議論の作法」, 毎日新聞, 2014.10.24.
- 西崎文子, 新聞記事, 特集「核といのちを考える——『被曝体験』を原点に」, 朝日新聞, 2014.8.9.
- 西崎文子, 「特集 それぞれの戦後——アメリカとベトナム 特集にあたって」, 『東京大学アメリカ太平洋研究』 **14.4**, pp5–6, 2014.3.
- 西崎文子, 新聞記事, 「紛争と国家の行方 7 『民族自決』の夢を問い直せ」, 毎日新聞, 2014.3.10.

G. 国際学会

- セミナー, Department of History, University of Virginia, ヴァージニア大学, 2014.9.5, 招待, “A Story of ‘Self-Government’: A Contested Legacy of Wilsonian Diplomacy”, 英語.
- 国際シンポジウム「核兵器廃絶への道～原点を見つめ、『核の傘』を越える」, 朝日新聞社, 長崎市, 2014.8.2, 招待, パネリスト.
- Workshop: “Pacific Worlds: Empire, Environment, Embodiment”, 日本アメリカ学会, 沖縄コンベンションセンター, 2014.6.8, 英語, 司会.
- 講演会, 北京大学国際関係学院, 北京市, 2014.3.28, 招待講演, 「日本国憲法と日米関係の現在」.

H. 国内学会

- シンポジウム「第一次世界大戦とアメリカ」, 日本アメリカ史学会, 第 11 回年次大会, 亜細亜大学, 2014.9.27, 一般発表, 「history と historiography のあいだ——『新外交』をめぐる考察」.

I. その他の研究活動

- 講演, カシヨ株式会社, 長野市, 2014.9.12, 長野市民教養講座「貧困の発見と『アメリカの世紀』」.

橋川健竜 (HASHIKAWA Kenryu)

B. 分担執筆

- 網野徹哉, 橋川健竜, 『南北アメリカの歴史』, pp14-17, 94-109, 130-144, 171-184, 199-212, 230-236. 放送大学教育振興会, 2014.

J. 受賞

- 清水博賞 (アメリカ学会), 『農村型事業とアメリカ資本主義の胎動 共和国初期の経済ネットワークと都市近郊』, 東京大学出版会, 2013, 2014 (受賞).

長谷川まゆ帆 (HASEGAWA Mayuho)

B. 分担執筆

- 長谷川まゆ帆, 「多数決原理の形成とローマ法の受容」, 甚野尚志・踊 共二 (編), 『中近世ヨーロッパの宗教と政治——キリスト教世界の統一と多元性——』, MINERVA 西洋史ライブラリー 100, p424, pp182-203, ミネルヴァ書房, 2014.

C. レフリー付き学術論文

- 長谷川まゆ帆, 「オーラルとエクリの^{あわい}間——近世期ヨーロッパの事例から——」, 長谷川貴彦 編, 「フォーラム: 語りのかたち——パーソナル・ナラティヴの歴史学——」, 『西洋史学』, **251**, pp25-28.

H. 国内学会

- 社会デザイン学会 2014, 立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科, 2014.12.6-7, 招待講演, 長谷川まゆ帆, 報告「欧州近代におけるこどもの発見」, パネルディスカッション「幸福論から考えるこどもの現在」パネラー: 北山晴一, 広岡守穂, 石坂わたる, 竹下秀子, 長谷川まゆ帆の全 5 名.

I. その他の研究活動

- 『東京大学新聞』, 2014.11.25 号 「研究室散歩@歴史学 生き方から歴史を探究」, インタビュー記事.
- 高校生のための金曜特別講座 2014.9.26, 「女と男と子どもの近代——日常性の歴史学に魅せられて——」, 18 号館ホール

羽田正 (HANEDA Masashi)

D. 一般学術論文

- 羽田正, 「東亜與世界史」, 『澳門理工学报 人文社会科学版』, **17.3**, 2014, pp181-184.
- 羽田正, 「Global History, グローバルヒストリーと日本史」, 『岩波講座日本歴史 月報 11』, **20**, 2014, pp1-4.

G. 国際学会

- “Japanese Perspectives on Global History”, Colloquium Global History, Berlin Free University,

2014.12.8.

- “History of Japanese Historiography and “Global History””, Workshop “Is Global History Truly Global?: Positionality of Historians”, Humboldt University Berlin, 2014.12.5.
- 「東アジアと世界史」3 研究所合同シンポジウム『東アジアから世界史を見る / 考える』. 京都大学人文科学研究所. 2014.1.24.

H. 国内学会

- 「最近の中東・アフリカ情勢——イスラーム世界の内部分裂？」TM 研究会. 三井住友銀行呉羽橋クラブ. 2014.10.9.
- 「現代世界と新しい世界史 地域世界概念は新しい世界史に有効か？」平成 26 年度第 49 回徳島県高等学校教育研究大会 地歴学会. 徳島県立小松島高等学校. 2014.8.22.
- 「三木史学をめぐる——新しい世界史を中心に」UTCMES 公開シンポジウム『悪としての世界史：三木亘の中東地域文化論』. 東京大学駒場キャンパス. 2014.4.20.
- 「世界史と西アジア史」新学術領域研究. 「西アジア文明」研究会. 筑波大学. 2014.3.9.

原和之 (HARA Kazuyuki)

D. 一般学術論文

- 原和之. 〈哲学〉の再マッピング——ラカンの「四つのディスクール」を事例として. 中島隆博, 馬場智一 (編)『グローバル化時代における現代思想 Vol. 1 香港会議』. pp65–77. CPAG. 2014.
- 原和之. 「分析」とは何の謂いか——「分析」概念の歴史におけるフロイト. 東京大学総合文化研究科地域文化研究専攻紀要『Odysseus』. 18. pp83–113. 2014.
- 原和之. サドの読者ラカン. 『ユリイカ』. 650, vol. 46–12. pp177–184. 青土社. 2014.
- 原和之. フロイト＝ラカンにおける「不安」：構造論的アプローチとその射程. 『I.R.S.--ジャック・ラカン研究』. 12. pp65–87. 日本ラカン協会. 2014.

F. その他の業績

- 原和之. 書評. 液状化する精神分析とそのハードコア——河野一紀 (著)『ことばと知にもとづいた臨床実践：ラカン派精神分析の展望』. 創元社. 2014. 『図書新聞』. 3173. 2014.9.6. p4.
- 原和之. 書評. 荒谷大輔 (著)『「経済」の哲学：ナルシスの危機を超えて』. 『フランス哲学・思想研究』. 19. pp236–240. 日仏哲学会. 2014.
- 原和之. インタビュー. 「第 4 講 個性とは運命であり、呪いでもある」(談). 東京大学教養学部×博報堂ブランドデザイン. 『「個性」はこの世界に本当に必要なものなのか』. pp64–80. KADOKAWA. 2014.

G. 国際学会

- 7e Congrès de la Société Internationale de Psychanalyse et Philosophie (SIPP/ISPP). Seidlvilla (München). 2014.12.3–12.6. 招待講演. “Analyse et langage: La ‘lettre’ selon Lacan lecteur de Poe et de Joyce”. フランス語.

I その他の研究活動

- ギヨーム・ルブラン講演会. 東京大学駒場キャンパス 18 号館. 2014.7.14. Entendre pour mieux voir. Elements pour une théorie de l'invisibilité sociale (見るために聞くということ: 社会的不可視性の理論のために). フランス語. 組織, 司会, コメンテータ.
- エリック・カズデン・セミナー. 東京大学駒場キャンパス 18 号館. 2014.4.23. Post Global Futures. 英語. 組織, 司会, コメンテータ.
- アルノー・フランソワ講演会. 東京大学駒場キャンパス 18 号館. 2014.4.8. Sensibilité et émotion chez Bergson et Hume (ベルクソンとヒュームにおける感性と感情). フランス語. 組織, 司会, コメンテータ.
- HARA, K. Symptôme, corps et savoir chez Lacan. Séminaire “La pluralité des approches du corps” (Monique David-Ménard). Centre d'études du vivant/Université Paris-Diderot. 2014.3.18.

笛田千容 (FUETA Chihiro)

A. 著書

- 笛田千容. 『MBA たちの中米改革——国際学術協力による地域経済統合』(アジアを学ぼう別巻 6). p60. 風響社. 2014.

D. 一般学術論文

笛田千容. 中米の企業社会と政治変動——エルサルバドルとグアテマラの経済頂上団体を中心に. 『ODYSSEUS』. **18**. pp115–130. 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻. 2014.

G. 国際学会

- 第 6 回アジア大洋州ラテンアメリカ研究協議会 2014. アジア大洋州ラテンアメリカ研究協議会 (CELAO). 京都大学. 2014.9.16–9.18. 一般発表. Women's empowerment and anti-feminist backlash in postwar El Salvador. 英語.

藤田護 (FUJITA Mamoru)

C. レフリー付き学術論文

- 藤田護. ボリビア・アンデスにおけるアイマラ語口承文学の躍動: ラパス市周辺の溪谷部における語りから. 『イベロアメリカ研究』. **36.1**. pp27–51. 上智大学イベロアメリカ研究所. 2014.

F. その他の業績

- 藤田護. アイマラ語字幕翻訳監修. ウカマウ集団. 『叛乱者たち』. 2014.
- 藤田護. 映画パンフレット解説. 『叛乱者たち』はボリビアの現状を批判しうるか. シネマテーク・インディアンズ (編). 『革命の映画／映画の革命の半世紀』. pp8–11. 2014.

G. 国際学会

- Latin American Studies Council of Asia and Oceania (CELAO). CELAO. 京都大学. 2014.9.16–9.18. 一般発表. La figura y el rol del serpiente en la literatura aymara contemporánea de Bolivia, oral y escri-

ta. スペイン語.

H. 国内学会

- 日本ラテンアメリカ学会. 日本ラテンアメリカ学会. 関西外国語大学. 2014.6.7-8. 一般発表.
20世紀初頭のボリビアのカシーケス・アボデラードスの運動に関するオーラルヒストリー資料
の回復作業と読みの試み. 日本語.

古田元夫 (FURUTA Motoo)

B. 分担執筆

- Furuta, M. “Giáo sư Phan Huy Lê và thuộc tính Đông Á của lịch sử Việt Nam”. Trần Văn Thọ, Nguyễn Quang Ngọc, Philippe Papin chủ biên. *Nhân Cách Sử Học*. p823. pp272-279. Nhà xuất bản Chính trị Quốc gia. 2014.
- 古田元夫. 「ホー・チ・ミン——民族と階級の相克の中で」. 趙景達, 原田敬一, 村田雄二郎, 安田常雄 (編). 『講座 東アジアの知識人 4 戦争と向き合って』. p396. pp163-178. 有志舎. 2014.

F. その他の業績

- 解説. ヴォー・グエン・ザップ (著). 眞保潤一, 三宅露子 (訳). 『人民の戦争・人民の軍隊』.
中公文庫. pp235-247. 2014.

G. 国際学会

- 東アジア四大学フォーラム (BESETOHA). ベトナム国家大学ハノイ校主催. ハノイ.
2014.11.12. 学長セッション招待講演. 「東アジア四大学フォーラムの16年を振り返って」.

H. 国内学会

- 地域文化研究専攻シンポジウム. 「地域のかたち 記憶のかたち」. 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻. 2014.6.28. 「ベトナム 1945 年飢饉の記憶と表象」.

ホーンズ, シーラ (HONES Sheila)

A. 著書

Hones, S. *Literary Geographies: Narrative Space in Let the Great World Spin*. New York. Palgrave Macmillan. p224. 2014.

増田一夫 (MASUDA Kazuo)

D. 一般学術論文

- 増田一夫. 「哲学的人間学」と生存の政治学——アーレントによるフランス革命とルソー.
『ODYSSEUS』. 東京大学大学院総合文化研究科・地域文化研究専攻紀要. **18**. pp131-158. 2013.

F. その他の業績

- 増田一夫. 書評. フクシマと生きていくということ. ミカエル・フェリエ 『フクシマ・ノート
忘れない、災禍の物語』 (新評論, 2013) について. 『ふらんす』. 2014 年 3 月号. p. 72.

- 増田一夫, 「哲学」, 監修, 『ビジュアル教養大事典』, 日経ナショナルジオグラフィックス社, pp316–343, 2014.

G. 国際学会

- ジャック・デリダ没後 10 年シンポジウム, 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の人文学と東アジア文化圏——東アジアにおける人文学の危機と再生」, 早稲田大学・小野記念講堂, 2014.11.22, 招待講演, 初めに——差異、寓話、そして前未来.

松井 健 (MATSUI Takeshi)

A. 著書

- 松井健, 『民藝の擁護——基点としての〈柳宗悦〉——』, 里文出版, 227 頁, 2014.

D. 一般学術論文

- 松井健, 「晩年の柳宗悦と古丹波——その『自然』をめぐる思索——」, 『紫明』, 丹波古陶館, 第 35 号, pp2–6, 2014.

F. その他の業績

- 松井健, 「人類学とアフリカを『生きた』旅人」, 『生態人類学ニュースレター』, 生態人類学会, 第 20 号, 別冊「特集: 掛谷誠先生追悼」, pp2–3, 2014.
- 松井健, 「生業、生産、労働」「工芸と職人」, 国立民族学博物館(編), 『世界民族百科事典』, 丸善出版株式会社, pp400–401, 414–415, 2014.

黛 秋津 (MAYUZUMI Akitsu)

B. 分担執筆

- 黛秋津, オスマン帝国における附庸国と「宗主権」の出現——ワラキアとモルドヴァを例として, および黛秋津, 望月直人, 岡本隆司, 東西の君主号と秩序観念, 岡本隆司(編), 『宗主権の世界史——東西アジアの近代と翻訳概念』, p412, pp22–48, pp119–148, 名古屋大学出版会, 2014

F. その他の業績

- 黛秋津, 新聞記事, クリミア半島 民族の交差点, 朝日新聞, 夕刊 6 面, 2014.4.14.

G. 国際学会

- 4th International Balkan Annual Conference “Turkey and Romania: Historical Ties and Future Collaboration in the Balkans”, Istanbul University, The University of Bucharest (Bucharest), 2014.10.15–18, 一般発表, The Establishment of the Russian consulates in the Danubian Principalities in the 1780s and the Ottoman Empire, 英語.

H. 国内学会

- 近世イスラーム国家と周辺世界研究会, 東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所, 東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所, 2014.11.23, 招待講演, 18 世紀後半のオスマン帝国

のワラキア・モルドヴァ支配——ロシアの黒海・バルカン進出との関連で、

I. その他の研究活動

- TASC (公益財団法人たばこ総合研究センター) 研究助成を受けての調査研究、研究課題: ルーマニアにおける水たばこ普及の現状と歴史的背景——オスマン帝国の支配との関連で、

三谷 博 (MITANI Hiroshi)

B. 分担執筆

- 三谷博, 「二十世紀を超えて——日本の未来と近代の経験」, 萱野稔人 (編), 『現代知 vo.2 日本とは何か』, NHK 出版, pp270–290, 2014.

F. その他業績

- 三谷博, 「高校歴史教育の科目『歴史基礎』を考える」①②③, 『日本歴史』, 吉川弘文館, 2014.6, 8, 9.
- 三谷博, 「いま、なぜ『歴史認識を論ずる必要があるのか』」, ハフィントンポスト, http://www.huffingtonpost.jp/hiroshi-mitani/understanding-of-history_b_5653166.html, 2014.8.15.
- Why Do We Still Need to Talk About “Historical Understanding” in East Asia?. Translated and Introduced by Andrew Gordon. The Asia-Pacific Journal: Japan Focus. <http://www.japanfocus.org/-Hiroshi-Mitani/4161>, 2014.8.11.

G. 国際学会

- 組織, 「東アジア若手歴史家セミナーの趣旨と課題」, 第2回東アジア若手歴史家セミナー, 復旦大学歴史学系 (上海), 日本語, 2014.12.25–29.
- 発表, Understanding the Neighbors: A Japanese historiography on the relations in modern East Asia (1), 第二次日本—スロヴェニア歴史共同研究, 城西大学, 英語, 2014.12.18.
- 招待講演, 「東アジア国際環境の激変と歴史認識」, 2014年 韓国語日語日文学會 秋季国際学術シンポジウム, 韓国外国語大学校 (ソウル), 日本語, 2014.10.25.
- 発表, French revolution in comparative perspective—from Japanese experience in nineteenth century, Histoire et historiographie de la Révolution française et de l'Ere Meiji au Japon, L'Institut d'histoire de la Révolution de française, Vizille (France), 英語, 2014.9.3.
- 発表, An Introduction to the Historiography of Meiji Revolution (1): A Comparison with French Revolution, Institute for Modern History, Ljubljana (Slovenia), 英語, 2014.9.1.
- 招待講演, 「明治維新——深思普遍的意義」, 北京大学歴史系, 天津大学日本研究センター, 日本語, 2014.4.26–30.
- 招待講演, 「二十世紀を超えて——日本の未来と近代の経験」, 台湾大学日本研究センター, 日本語, 2014.3.20.
- 招待講演, 「明治維新——その普遍的意義を考える」, 台湾大学歴史系, 日本語, 2014.3.11.

村田雄二郎 (MURATA Yujiro)

B. 分担執筆

- 村田雄二郎, ナショナリズム: 中華民族の虚と実, 高原明生ほか(編)『東大塾 社会人のための現代中国講義』, pp59-81, 東京大学出版会, 2014.
- 村田雄二郎, 非対称な隣国: 近代中国の自己像におけるロシア・ファクター, 望月哲男(編)『ユーラシア比較地域大国論 6 ユーラシア地域大国の文化表象』, pp105-127, ミネルヴァ書房, 2014.
- 村田雄二郎, 総論, 座談会: 近代東アジアのなかの知識人, 趙景達ほか(編)『講座 東アジアの知識人』第5巻, pp7-9, pp370-413, 有志舎, 2014.
- 村田雄二郎, (共編) 辛亥時期袁世凱秘牘(静嘉堂文庫蔵檔), p854, 中華書局, 2014.
- 村田雄二郎, (共編) 共同討議 日中関係 なにが問題か: 1972 年体制の再検証, pp141, 岩波書店, 2014.

D. 一般学術論文

- MURATA Yujiro. The International Conference Commemorating the Centennial of the 1911 Revolution in China: Organization and Summary of the Tokyo Session's Proceedings. *Asian Research Trends*. 8. pp1-21. Toyo Bunko. 2013.
- 村田雄二郎, 世界史中的辛亥革命(袁広泉訳), 『当代日本中国研究 2013』, pp85-94, 人間文化研究機構, 2014.

F. その他の業績

- 村田雄二郎, 序, 張玉萍『戴季陶与日本』, 北京大学出版社, 2014.
- 村田雄二郎, “黄金十年” 暗蔵戦争陰霾: 村田雄二郎述説辛亥革命前後東亜格局流変, 香港『文匯報』, 2014 年 5 月 26 日.
- MURATA Yujiro. Introduction: 1911 Revolution at the Boundaries. *The Journal of Contemporary China Studies*. 3-1. pp3-5. Waseda Institute of Contemporary Chinese Studies. Waseda University. 2014.

I. その他の研究活動

- 学生交流, 台北, 国立政治大学歴史学系, 「近代中国の社会と国家」, 2014.11.24.

村松真理子 (MURAMATSU Mariko)

B. 分担執筆

- 村松真理子, 「恋愛・ジェンダー (3) —— 天使のような貴婦人から恋する女性読者まで」, 「言語・翻訳 (2) —— ダンテの新しいことばと新しい読者」, 「信仰 (1) —— 知と愛と幸福」, 宮下志朗, 井口篤ほか(共著), 『中世・ルネサンス文学』所収, 放送大学教育振興会, pp59-88, 127-146, 184-203, 2014.
- 村松真理子, 「中世・ルネサンス (2) ダンテ『神曲』」, 「中世・ルネサンス (3)」, 「ボッカッチョ『デカメロン』」, 宮下志朗, 井口篤ほか(共著), 『ヨーロッパ文学の読み方——古典篇』所収.

放送大学教育振興会, pp143–166, 167–192, 305–310, 2014.

D. 一般学術論文

- Muramatsu, M. *Lingua e territori. Esperienze a confronto: Italia e Giappone*. In: Maria Katia Gesuato (a cura di). *L'Italia dei territori e l'Italia del futuro*. Atti della XIIa Settimana della Lingua Italiana nel Mondo. Istituto Italiano di Cultura. Tokyo. pp34–46. 2014.

G. 国際学会

- 第38回伊日研究学会 Associazione Italiana per gli Studi Giapponesi, イタリア・レッツェ市, Università del Salento, 2014.9.18, 招待発表, *L'amore dannunziano nella letteratura giapponese- da Ikuta Choko a Mishima Yukio*, イタリア語.

H. 国内学会

- 京都大学総合博物館, 生誕150周年記念展「ダンヌンツィオに夢中だった頃」——ガブリエーレ・ダンヌンツィオ(1863–1938)関連講演会, 京都, 2014.1.26, 招待講演, 「ダンヌンツィオ——人生・テキスト・世界」.

森井裕一 (MORII Yuichi)

C. レフリー付き学術論文

- 森井裕一「ウクライナ危機とドイツの対応」, 『ユーラシア研究』, ユーラシア研究所, **51**, pp48–52, 2014.

D. 一般学術論文

- 森井裕一「ドイツにおける国内拘束の強まりと欧州統合——国内構造の変化と対外政策」, 『ヨーロッパ研究』, 東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター, **13**, pp5–14, 2014.

F. その他の業績

- 森井裕一, 解説, 「経済教室、海外に学ぶ成長戦略——ドイツ、労働改革経済再生の礎に」, 『日本経済新聞』, 2014.5.30, p31.
- 森井裕一, 解説, 「欧州議会選挙で伸張する欧州懐疑主義政党とEUの展望」, 時事通信社, 『e-World』, 2014.5, 28号.
- 森井裕一, 解説, 「論点: ウクライナ危機——親露の東部安定化焦点」, 『読売新聞』, 2014.4.15.
- 森井裕一, 解説, 「強行するロシアを前に、ドイツは何ができるのか——ウクライナ政策の展望」, 『SYNODOS』, 2014.3.26, <http://synodos.jp/international/7616>.
- 森井裕一, 解説, 「2014年を占う——欧州: 反欧州勢力」伸び、EU行方を左右——5月の欧州議会選が試金石」, 時事通信社, 『e-World』, pp14–17, vol. 1, 2014.1, 29号.

H. 国内学会

- 森井裕一, 討論, 日本国際政治学会研究大会, 福岡国際会議場, 欧州国際政治史・欧州研究分科会, 「ヨーロッパ大陸の外から見る地域、統合、ナショナリズム」2014.11.14.

森山 工 (MORIYAMA Takumi)

C. レフリー付き学術論文

- Moriyama, T. “Cultural Resource in Action: Mobilization of Culture in Madagascar under French Colonial Rule”. *Japanese Review of Cultural Anthropology*, **14**, 2014, pp31–53.

D. 一般学術論文

- 森山工, 「ことばからみたマダガスカルの文化⑥ 主語と動詞のあやしい関係——マダガスカル語の「態」について」, 『SERASERA マダガスカル研究懇談会ニュースレター』, **30**, マダガスカル研究懇談会, 2014.1, pp21–28.

E. 翻訳

- マルセル・モース著『贈与論 他二篇』, 森山工 (訳), 2014.7, 岩波書店, 489p.

F. その他の業績

- 森山工, 「訳者解説——マルセル・モースという「場所」」, マルセル・モース『贈与論 他二篇』, 森山工 (訳), 2014.7, 岩波書店, pp467–489.
- 森山工・寺田寅彦, 「教えて！ ユータスくん——新しい学事暦」, 『教養学部報』, **569**, 東京大学教養学部, 2014.11.5, p1.

矢口祐人 (YAGUCHI Yujin)

A. 著書

- 矢口祐人, 『奇妙なアメリカ』, p221, 新潮社, 2014

C. レフリー付き学術論文

- Yaguchi, Y. Japanese Reinvention of Self through Hawai'i's Japanese Americans. *Pacific Historical Review*, **83**, **2**, pp333–349, 2014.5.

G. 国際学会

- Cultures In War: Combatants, Islanders and Settlers in the Pacific War and Afterward. Northern Marianas Humanities Council, サイパン, 2014.6.14, 招待講演, Japan's 'War-Tourism' to the Mariana Islands, 英語.

安岡治子 (YASUOKA Haruko)

I. その他の研究活動

- 東方教父をめぐるミニ・シンポジウム (3), 東京大学駒場キャンパス, 2015.11.10, 報告, 「ドストエフスキー著『1864年のメモ』および『おかしな人間の夢』について」.
- 東方教父をめぐるミニ・シンポジウム (2), 東京大学駒場キャンパス, 2014.3.19, 報告, 「パーヴェル・フロレンスキー著『真理の柱と礎』について」.

ロビンス, ロジャー (ROBINS Roger)

和田毅 (WADA Takeshi)

C. レフリー付き学術論文

- Wada, T. 2014. “Who are the active and central actors in the ‘rising civil society’ in Mexico?”. *Social Movement Studies: Journal of Social, Cultural and Political Protest*. **13.1**. pp127–157.

F. その他の業績

- Wada, T. 2014. “Upcoming Conferences and Lectures ‘Future of Democracy in the Age of Post-neoliberalism: Social Movements in a Globalizing World’.” *Newsletter of the RC09 Social Transformations and the Sociology of Development, a Research Committee of the International Sociological Association*. Fall/Winter 2013–2014, pp18–19.

G. 国際学会

- 国際学術会議『ポスト新自由主義時代の民主主義の行方：グローバル化する世界と社会運動』。東京大学伊藤国際学術研究センター，東京大学多文化共生・統合人間学プログラム（共生のプラクシス教育プロジェクト：IHS），京都大学地域研究統合情報センター（CIAS），JSPS 科学研究費補助金（挑戦的萌芽）26590087『グローバル化する世界における民主主義の行方と社会運動の役割についての国際共同研究』。（代表：東京大学 和田毅）。東京大学 & 京都大学。2014.7.20–25。英語。座長。
- 国際学術会議『ポスト新自由主義時代の民主主義の行方：グローバル化する世界と社会運動』。京都大学地域研究統合情報センター（CIAS）& JSPS 科学研究費補助金（挑戦的萌芽）26590087『グローバル化する世界における民主主義の行方と社会運動の役割についての国際共同研究』（代表：東京大学 和田毅）。京都大学。2014.7.24。一般発表。“Predicting Future Action Patterns Based on the Cultural Hypothesis about Repertoires of Contention” (with Y. Koo and K. Hoshino)。英語。
- 第 18 回社会学世界大会 (World Congress of Sociology) 2014。国際社会学会 (International Sociological Association)。横浜パシフィコ (横浜)。2014.7.19。一般発表。“Predicting Future Action Patterns Based on the Cultural Hypothesis about Repertoires of Contention” (with Y. Koo and K. Hoshino)。英語。
- 第 18 回社会学世界大会 (World Congress of Sociology) 2014。国際社会学会 (International Sociological Association)。横浜パシフィコ (横浜)。Research Committee on Social Movements, Collective Action and Social Change (RC48), Session Organizer (Session “Media and Social Movements in the Age of Globalization.”)。英語。
- 第 18 回社会学世界大会 (World Congress of Sociology) 2014。国際社会学会 (International Sociological Association)。横浜パシフィコ (横浜)。2014.7.17。Session “Media and Social Movements in the Age of Globalization.” 英語。司会。

- マイケル・ブラウォイ (Michael Burawoy) 講演会 (国際学術会議『ポスト新自由主義時代の民主主義の行方: グローバル化する世界と社会運動』先行公開セミナー). 主催: JSPS 科学研究費補助金 (挑戦的萌芽) 26590087 『グローバル化する世界における民主主義の行方と社会運動の役割についての国際共同研究』 (代表: 東京大学 和田毅). 東京大学駒場キャンパス, 2014.7.10. 英語, 企画・司会.

H. 国内学会

- 学術ワークショップ『ポスト新自由主義時代の民主主義の行方: グローバル化する世界と社会運動』, JSPS 科学研究費補助金 (挑戦的萌芽) 26590087 『グローバル化する世界における民主主義の行方と社会運動の役割についての国際共同研究』 (代表: 東京大学 和田毅), 群馬大学草津セミナーハウス, 2014.11.16, 一般発表, “Predicting Future Action Patterns Based on the Cultural Hypothesis about Repertoires of Contention” (with Y. Koo and K. Hoshino), 英語.
- 日本ラテンアメリカ学会東日本地区研究部会研究会, 日本ラテンアメリカ学会, 東京大学本郷キャンパス, 2014.4.5, 運営委員.

I. その他

- 東京大学スーパーグローバル大学創成支援に係る戦略的パートナーシップ構築プロジェクト『メキシコ (エル・コレヒオ・デ・メヒコ大学院大学) を中心とした中南米地域との先端研究教育パートナーシップの構築』事業申請採択, 2014–2017.
- 学術ワークショップ『ポスト新自由主義時代の民主主義の行方: グローバル化する世界と社会運動』の組織・運営, JSPS 科学研究費補助金 (挑戦的萌芽) 26590087 『グローバル化する世界における民主主義の行方と社会運動の役割についての国際共同研究』 (代表: 東京大学 和田毅), 群馬大学草津セミナーハウス, 2014.11.15–17, 英語, 座長.
- 日本学術振興会科学研究費補助金挑戦的萌芽『グローバル化する世界における民主主義の行方と社会運動の役割についての国際共同研究』 (26590087), 申請採択, 2014–2017, 研究代表者.
- 東京大学伊藤国際学術研究センター (IIRC) 会議助成金, プロジェクト申請採択, 2014.
- 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 C 『スペイン語圏の社会的事件の通時データベースの作成と政策決定への応用』 (22530531) の研究計画に基づいた、新聞記事自動収集ソフトウェアの開発, 研究代表者.
- 学術雑誌『年報 地域文化研究』の論文査読.
- 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所業績評価 (外部査読).
- 学術雑誌 *Social Problems* の論文査読.